



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.33
六甲山の野生動物との
共存を考える/坂田 宏志
2005年12月発行

第33回テーマ： 六甲山での野生動物との 共存を考える



講演内容

- ①野生動物たちの今
- ②人と野生動物の
適切な関係とは？
- ③自然環境の恵みと
保全を考える

講師：坂田 宏志

プロフィール

1968年生まれ。京都大学農学研究科博士後期課程修了。農学博士。現在、兵庫県立大学自然・環境科学研究所助教授、人と自然の博物館主任研究員。兵庫県森林動物共生室係長兼務。

実施日：平成17年12月10日（土）
午後1時00分～3時45分

場 所：六甲山YMCA 里見ホール



クリスマスムードが
あふれる里見ホール

久しぶりの六甲山YMCA

今月より来年3月まで六甲山自然保護センターが冬季休館のため、会場を六甲山YMCAの里見ホールに移しました。当日は快晴ながらも朝の気温は2度と低く、散策道は雪が残っていました。

講演の前に講師の坂田宏志さんと一緒に昼食懇親をしました。里見ホールの暖炉に火を入れると同時にサツマイモを火の中へ。焼き芋の出来上がりを楽しみにしつつ、講演を始めました。



雪道を歩きながらのボランティア清掃

兵庫県の野生動物対策について理解できた

坂田宏志さんは、県立人と自然の博物館の主任研究員で、兵庫県の野生動物対策にも取り組まれています。講演では2000年に六甲山の周辺をツキノワグマが徘徊した事例や、現在兵庫県が実施しているツキノワグマの学習放獣についてご紹介いただきました。自然のバランスが崩れている実態や生態系の仕組みを、図解を用いて分かりやすく解説していただきました。

六甲山にいる野生動物の実態を知った

六甲山にいる主な動物を紹介いただきました。タヌキの特徴をはじめ、話題となっている「イノシシ条例」やペットで飼われていたアライグマなどの外来生物の存在を確かめました。質疑応答では様々な意見が飛び交い、適切な関係で共生していくにはどうすべきかを考えました。

野生動物への愛情と責任を正面から考えたい

今回のお話で、野生動物の本来のあり方と我々の関わり方について考えさせられました。そして野生動物対策をしてくれる人がいるおかげで私たちは生活できているという事実を見直しました。動物への愛情と責任について私たちはどう関わるべきかを正面から考えたいと思います。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 七目木 修一さん

兵庫県内の野生動物について現状を分かりやすく説明して頂きました。特にツキノワグマが人里に現れる回数と森の木の実の豊凶の関係が分かりやすいものでした。また、野生動物、外来種について、人が自然を理解しないと彼らを傷つけることにつながるのですね。勉強になりました。



ところで、自然からの贈り物、休憩時間の焼き芋はおいしかったですね。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成